

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	アラビア語と日本語における受身形の対照研究
Author(s)	Elsherbeny, Maher
Citation	ニダバ , 28 : 98 - 107
Issue Date	1999-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048050
Right	
Relation	



アラビア語と日本語における受身形の対照研究

Maher ELSHERBENY

1. はじめに

日本語の受身形は十分研究されているでしょうか。また、日本語の受身形とアラビア語の受身形は同じ意味を表すのでしょうか。

1.1. 日本語の受身形はまだ、十分研究されていない。特に日本語の全ての動詞は受身形に変形されるかどうか、受身形に変形される動詞はどんな動詞であるか、何を表すかということはまだモーラ的に十分研究されていない。また、アラビア語と日本語における受身形の対照研究はまだ、行われていません。

1.2. したがって、日本語の受身形とアラビア語の受身形を対照し、両言語の受身形の示す意味の類似点と相違点を明らかにすることが本稿の目的である。

1.3. 受身形に変形される現代日本語動詞を調べ、書物から例を集め、分類することは本稿の方法である。

2. 以下に日本語とアラビア語の受身形の表す様々な意味を取り上げる。

2.1. 日本語の受身形：日本語動詞の全ては受身形に変形されるかどうかという観点から考えてみると、受身形に変形される動詞と受身形に変形されない動詞が存在している¹⁾。アスペクト的面的から動詞を＜受身形に変形される動詞＞と＜受身形に変形されない動詞＞の二つに分類できる。＜書く、降る、泣く、建てる、読む、教える、殴る、吠える、蹴る、叩く、結婚する、止める、起こす、殺す、盗む、壊す、死ぬ、始める、出る＞のような＜運動性動詞＞は前者の例であり、＜ある、できる、劣る＞のような＜状態性動詞＞は後者の例である。以下に受身形の表す意味をとりあげる。

2.1.1. 受身²⁾：受身形は以下のように様々な意味を表すが、＜受身＞を表すために、よく使用される受身を＜一次的受身＞と＜二次的受身＞に分けられる。＜一次的受身＞は＜動作受者＞のみ表す受身のことである。しかし、表し方は様々である。たとえば、例1では＜盗み＞という動作を受けた動作受者（私）は文に出ている。例2では、＜動作受者＞³⁾が文に出ていないが含意されている。知られているから省略されるのは普通であるが、文に出ても、文に出ていなくても＜動作受者＞を知らなければならないのである。＜動作受者＞は文に出ていない場合、または、含意されていない場合、受身の意味は成り立たない。つまり、受身の意味を表す

のに、直接的⁴⁾でなければ、間接的⁵⁾に〈動作受者〉を表すべきであることは受身の最低の条件である。〈動作受者〉だけが文に出ている場合、焦点が〈動作受者〉だけに当てられている。このように〈動作受者〉のみ表れる受身を〈一次的受身〉と呼ぶことにする。

1 私は盗まれた。(木,P.191)⁶⁾

2 盗まれた。(作例)

それにたいし、〈動作発者〉⁷⁾も、〈動作受者〉も表れる受身を〈二次的受身〉と呼ぶことにする。受身文に〈動作発者〉が現れるか、そうではないかということは二次の問題であるので、〈動作発者〉も表れる受身文を〈二次的受身〉と呼ぶことにした。たとえば、例3では、動作受者(次郎)の他に動作発者(太郎)が文に出ている。動作発者が文に出ているということは〈動作受者〉だけではなく、〈動作受者〉にも焦点が当てられている。つまり、〈一次的受身〉の場合、〈動作受者〉が存在しないといけなほかに、焦点が〈動作受者〉だけに当てられるので、強く当てられるが、〈二次的受身〉の場合、〈動作発者〉が存在しないといけなほかに、焦点が〈動作受者〉だけではなく、〈動作発者〉にも当てられるので、焦点が〈動作受者〉に弱く当てられる。また、〈動作発者〉は必ず受身文に直接的、または、間接的に、現れなくても受身文は成り立つ。〈動作発者〉は存在しなくても、受身の意味が成り立つので、〈動作発者〉の存在は条件の一つではない。そのために、受身を〈一次的受身〉と〈二次的受身〉に分けたのである。

3 次郎は太郎になぐられた。(木91,p.187)

更に、〈一次的受身〉を〈迷惑の一次的受身〉と〈非迷惑の一次的受身〉に細分する。〈迷惑〉⁸⁾とは起こった〈動作〉が〈動作受者〉にマイナスニアンスを与えることである。〈に〉の場合、たとえば、例4では、〈動作発者〉が存在しなく、〈動作受者〉のみ間接的に、現れており、〈迷惑の受身〉のみ表し得ない。〈迷惑の受身〉を表したくない場合、a,bの受身形を削除し、〈に〉を〈が〉にし、cの〈に〉を〈を〉にする。

4a 雨に降られた。(作例)

b 風に吹かれた。(作例)

c 酒に飲まれた。(作例)

また、〈を〉の場合、たとえば、例5は〈迷惑〉のみ表し得ない。〈迷惑〉を表したくない場合、〈を〉を〈が〉にする。

5 財布を盗まれた。(入,p.225)

そのように〈迷惑〉は〈一次的受身〉における〈迷惑〉なので〈迷惑の一次的受身〉と呼ぶことにする。

しかし、〈一次的受身〉の場合、〈は〉、〈が〉は〈迷惑〉を表さない。例6には〈が(は)〉が存在しているから、〈迷惑〉のニアンスがなない。

6 財布が(は) 盗まれた。(作例)

また、例7では〈に〉も〈迷惑〉を表さない

7a 松本城は濠にかこまれている。(木91,p.195)

b この地方は天然資源にめぐまれている。(木91,p.195)

c ビタミンCはみかんにふくまれている。(木91,p.198)

そのように、＜一次的受身＞における＜迷惑＞のニアンスがない受身を＜非迷惑の一次的受身＞と呼ぶことにする。

＜二次的受身＞の場合＜を＞によって、＜迷惑＞のニアンスがよく現れる。たとえば、

8a 授業中に先生に、おしゃべりを注意された。(v.s)

b その後、「8月15日」を知らないままソ連軍と戦闘になり、吉田さんは左半身をやられる。(天)

c その後、その先生に用事を頼まれたが、無視してトイレに走った。(v.s.)

d これが教師側から目をつつけられる一因になったと確信している。(v.s.)

e 逮捕された赤岸は女房に逃げられた直後で一つになる女兒を抱えていた……。

(人間1,p.219)

しかし、9では＜に＞、＜によって＞は＜非迷惑＞を表される。たとえば、

9a 源氏物語は紫式部によって書かれた。(益1998,p.92)

b 金閣寺は義満によってたてられた。(木91,p.195)

c その法則は日本の若い科学者によって発見された。(益1998,p.92)

d 日本語は最近多くの人によって学習されている。(益1998,p.92)

e 最近オリンピックは、クーベルタンによって始められた。(益1998,p.92)

＜迷惑受身＞は＜を＞によってよく表されるが、＜に＞によっても時々表される。その他、以下のように、＜～てしまう＞、＜～て困る＞文の様相（男女差別、年差別、文化的慣習、言語的慣習、副詞）によっても表される。

＜迷惑受身＞かどうか判断する手がかりの一つとして＜～て困った＞と＜～てしまった＞がある。＜～て困った＞あるいは＜～てしまった＞をつければ、文は＜迷惑＞を表すようになる。たとえば、例10の動詞＜来られる＞に＜困る＞がつける。また、例11aの動詞＜ねとれる＞と例11bの動詞＜しなれる＞に＜てしまった＞がつける。

10 夜遅く友達に来られて困った。(入,p.222)

11a 自分のいいなずけをねとれてしまった。(鈴木77,p.53)

b 太郎は花子にしなれてしまった。(鈴77,p.54)

c 次郎は梅に飲まれてしまった。(木91,p.193)

また、＜使役受身形＞も＜迷惑＞を表す。たとえば、例12では、書き手の視点では＜お母さんは子供に薬を飲ませたことが子供にとって、いやことだったこと＞を表されている。

12 子供はお母さんに薬を飲ませられた。(入,p.234)

また、＜使役受身形+てしまう＞も＜迷惑＞を表す。たとえば、

13 「ぼくのパトロンの一人息子なんだよ。個展がすんだら、あとはひきうけるから、そ

れまでなんとかしてやってくれよ」そんなことでぼくはむりやり承諾させられてしまった。(かい,p.149)

また、例14には＜山のような＞があるので、文は＜迷惑の受身＞を表すが、もし、＜山のような＞がなければ、＜尊敬＞を表すと解釈できる。

14 鈴木さんは部長に山のような書類を渡された。(益1998,p.91)

男女の違い：日本では男子は女子より能力があるのは普通だと思われる。そうでなければ、迷惑になるので、例15は＜迷惑の受身＞である。

15 太郎は花子に先に問題を解かれた。(益98p92)

年の違い：また、日本では年上は年下より能力があるのは普通だと思われる。そうでなければ、迷惑である。例16は＜迷惑の受身＞である。

16 太郎は次郎に先に問題を解かれた。

文化的慣習：日本では、姉は妹よりも先に結婚するのは普通だと考えられる。そうでなければ、迷惑である。例17は＜迷惑の受身＞である。

17 花子は妹に先に結婚された。(木91,p.182)

言語的慣習：例18は＜迷惑＞のみ表す。そのような場合に、そのような受身文を使うと＜迷惑＞を表す習慣がある。

18a 子どもに泣かれた。(入,p.231)

b 子どもの時に父に死なれた。(入,p.221)

c ジョンさんは友達に笑われた。(入,p.227)

＜迷惑の受身＞の場合、（＜～てくれた＞、＜～てもらった＞）を入れ替えると意味がおかしくなる。たとえば、

19a 隣の人に足を踏まれた。

を

*b 隣の人が足を踏んでくれた。

または

*c 隣の人に足を踏んでもらった。

にすると意味がおかしくなる。

しかし、＜非迷惑の受身＞の場合、＜～てくれた＞、＜～てもらった＞を入れ替えても意味がおかしくならない。たとえば、

20a 先生に誉められた。

を

b 先生に誉めてもらった。

または、

c 先生が誉てくれた。

にすることができる。

2.1.2. 可能：可能を表すために形態的に、受身形に変えられる動詞と変えられない動詞がある。

＜見る、離れる、降りる、助ける、出る、差し止める、受ける、起きる、寝る、出かける、食べる、続ける、止める、さける、見分ける、決める、答える、得る、感じる、眺める、伝える、逃げる、かける、覚える、借りる、組み立てる、越える、いる＞のような2グループの動詞と＜来る＞のような3グループの動詞は形態的に受身形に変えられる。しかし、＜書く＞のような1グループと＜する＞のような3グループは形態的に受身形に変えられない。

意味的に、それらの動詞は大きい特徴が二つある。一つに全ての動詞は意志性動詞であること。たとえば、＜食べる＞は意志性動詞であるので、受身形に変えられる。二つに動詞＜いる＞以外は運動性動詞であること。たとえば、＜ある＞のような状態性動詞は受身形に変えられない。

また、＜可能＞を＜能力＞と＜性質＞の二つに分けられる。

1 能力：特に動作発者の能力、たとえば、

- 21 a 息子の寝顔を見ながら「体が衰え、面倒を見られなくなるのではないか」「自分が死んだあと、1人だけ残しても仕方がない」などと思い悩んだ。(天)
- b 私はラジオが組み立てられます。(日基1,p.156)
- c ところが中身はすでに一部の新聞に漏れているという。報告書を改変できないか、記事を差し止められないか、と鳩首(きゅうしゅ)協議する幹部ら。
(天98.6.24)
- d 不法滞在で在留資格がないことから国民健康保険を受けられないのは「皆保険制度」の趣旨に反して違法だとして、横浜市港北区に住む台湾籍の男性(45)が15日、横浜市と国を相手取り、約400万円の国家賠償を求める訴えを横浜地裁に起こした。(Asa98.6.15)
- e 仕事で、サッカーW杯の日本対クロアチア戦を見られなかった。(天)
- f 音楽を勉強したいとの思いを、彼自身が伝えられるようになるまで待とうと思った。(v.s)
- j 苦しむ間にこちらが逃げられる」と小さな暴力マニュアルを説明してくれた。
(v.s)
- k 他者は一目で見分けられる。(み,p.9)
- l ただ、彼女が小学校二年生の子供の母親として注意深くふるまっているにもかかわらず、どこか年の若さが包みきれずにこぼれるのはさけられないことであった。
(かい,p.156)
- m 二百段の石段を昇って、一双?の石の唐獅子に茂?られた鳥居のところで見返ると、こういう遠景にかこまれた古代さながらの伊勢の海が眺められた。(み,P.5)

2 性質：性質は物の性能、能力、機能のことである。たとえば、例22では＜aこの魚、bこの

キノコ>は人間が食べた場合、困るかどうかなんかを聞く。

22a この魚は食べられません。(日初,p.156)

b このキノコは食べられますか。(入,p.93)

しかし、<能力>か<性質>かということが文脈からわかる場合もある。たとえば、例23では<あなたはタコが食べられますか>という意味であれば、<能力>を表すが、<タコというものは人間には食べる為にふさわしいものですか>という意味であれば、<性質>を表す。

23 たこが食べられますか。(入,p.93)

2.1.3.許可：受身形は<許可>も表す。たとえば、例24の<止められる>は<ブレーキをかけてもとまらない>という意味ではなく、<止めてもいい>という意味である。つまり、<可能>を表さないが、<許可>を表す。bも同様である。

24a 学校の前に車が止められるようになりました。(日初)

b 除名されても医者免除はそのままなので診療は続けられる。(Asa,98.5.8)

しかし、<能力>か<許可>かということが文脈からわかる場合もある。例25では<たとえば、運転手はこの狭いところに車を止めることができるかどうか>つまり、<能力>を尋ねるかそれとも<このところに車をとめてもいいかどうか>つまり<許可>を尋ねるかということが文脈からわかる。

25 ここに車が止められますか。(作例)

2.1.4.敬語：<尊敬>を表すために受身形で現れ得る動詞と現れ得ない動詞が存在している。

<書く、乗る、なる、おる>のような五段動詞、<出る、出かける、寝る、起きる>のような一段動詞、<来る、する>のような例外動詞は前者の例である。<できる、そびえる>のような一段動詞、<いる、ある>のような例外動詞は後者の例である。

運動性動詞の中の意志性動詞は相手に<尊敬>を表すために受身形で現れ得る。しかし、<いる、ある、できる、そびえる>のような状態性動詞の殆どは相手に<敬>を表すために受身形で現れ得ない。たとえば、

26a 先生が手紙を書かれます。(日初,p.268)

b 先生がお話をされます。(日初,p.269)

c 何時頃お宅を出られましたか。(入,p.98)

しかし、例27の動作発者と発話者が第一人称であれば、文は<可能>を表すが、動作発者と発話者が違う人称であれば、<可能>を表すか<敬>を表すかということを文脈からしか判断できないのである。

27 早く起きられません。

2.1.5.自発：<自発>は<聞こえる、見える、とれる、抜ける>のような動詞によって表される。しかし、次のように<自発>を表す受身形動詞は希である。

28 何となく故郷のことを思い出される。(森田,P.146)

2.2.アラビア語の受身形：以下にアラビア語の受身形の作り方と受身形の表す意味を取り上げる。

2.2.1.受身形の作り方：アラビア語の動詞は形態的に完了形と未完了形に分けられる。動詞の殆どは3字からできている。完了形3字動詞は受身形にする場合、第1字の母音aをuに、第2字の母音aをiにする。例、kataba(書いた)→ kutiba (書かれた)

未完了形3字動詞は受身形にする場合、第1字の母音aをuに、第2字の母音uをaにする。

例、yaktubu (書く) → yuktabu (書かれる)

受身形はアラビア語では *ṣiġhatu almabny llmajhūli* と言う。言葉通りに直訳にすれば、
<ṣiġhatu>は<形>、<al>は<その>、<mabny>は<構造>、<ll>は<のために>、
<majhūli>は<無知>を意味する。無知の構造、つまり、受身形とは動作発者を示さない構造のことである。

受身が使用される場合について、アラブ人文法家は次の4つの場合を取り上げている。

A 動作発者がわからない場合

B 話し手と書き手（または書き手と読み手）がお互いに動作発者を知っている場合

C 話し手（書き手）が動作発者を明確にすれば、話し手が困る場合

D 話し手（書き手）が動作発者を明確にすれば、動作発者が困る場合

2.2.1.客観的一次的受身：アラビア語の受身形は根本的に、客観的一次的受身を表す。

例① *suriqat hāfizaty* (財布が盗まれた) (作例)

2.2.2.説明文：説明の仕方の一つとして受身形がよく使われる。たとえば、

② *yūda ‘u allāhimu fy alināi . thumma yuqallabu jaidan .* (作例)

(肉は鍋に入れる。それからよく混ぜる)、(作例)

2.2.3.自発：アラビア語から考えれば、アラビア語に<自発>がない。しかし、日本語から考えれば、アラビア語の受身形は<自発>と言える。たとえば、

③ a *kullu hadhhi khawātirun la ‘alla ‘aliyan qad taḥaddatha bihā ilā ‘aliyin*
ḥadīthan hāmisān lā yakādu yusma ‘u . (fu, p. 97), (アリーの感情がこういう
ことを、人々には聞こえない声であれこれ語りかけたろう) p135

b *yustakhrāju alḥadīdu min aljibāli .* (鉄は山から採れる)、(作例)

2.2.4.可能：アラビア語に<可能>を表す活用形がない。しかし、日本語から考えれば、<可能>を表す限られた場合がある。

1 可能の能力：日本語の<出来る>に相当するアラビア語の動詞は<yumkin>、<yasitaṭīu>、<yaqdiru>の3動詞もある。<yumkin>は未完了形でありながら、受身形である。<yumkin>は未完了形の場合、能動形に変えられない。未完了形の場合、受身の形のみで現れる。<yumkin>は<可能の性質>、<自発>、<許可>も表し得る。<可能の能力>を表す場合、<yasitaṭīu>、<yaqdiru>がよく使われる。しかし、<yasitaṭīu>、<yaqdiru>は能動形のみで現れる動詞である。<yumkin>を使って、<可能の能力>を表す場合、<yumkin>を<mumkin>にしなければ

ばならない。例、

- ④ a wa hādhihi kalimatun yasīratun tuqālu fy lahizatin qasīratin wa tukutabu fy haiyizīn daiyiqin jidan min alwaraqī. (fu p 170)、(このことは言葉では簡単に一瞬のうちに言えるし、小さな紙切れにさっさと書き込むことができる) 不p 238

b yumkinu aklu altha ‘ābīni. (蛇が食べられる)、(作例)

c yumkinu akhdu alhadīdi min aljibālī. (鉄は山からとられる)、(作例)

2 可能の性質：

- ⑤ a wa lākinna ummu khālid ! wa kaifa yuqāsu ilaiḥā annisāu (fu, p. 51)

(だが、ウナム・ハーレドとあとの女どもと、どうして比較できよう?) 不,p.69

b hadha assamaku lā yuukalu. この魚は食べられません。(作例)

2.2.3.許可：アラビア語に＜許可＞を表す活用形がない。しかし、日本語から考えれば、＜許可＞を表す限られた場合がある。

- ⑥ a hal yumkinu aljulūsu hunā. (ここに座ってもいいですか)

b aina yuktabu alisumu. (名前はどこに書いてもいいですか)

動詞分類：受身形に変形されない動詞はとても少ない。laisa (否定を表し、形態は未完了形を持たない不完全動詞)、‘aliqa (やりはじめる) na ‘ima (～を喜ぶ) はその例である。そして、受身形に変形される動詞が殆どである。たとえば、日本語の＜ある＞に当たるアラビア語の＜yūjadu＞も受身形である。＜yūjadu＞は直訳にすれば、＜見つけられている＞

- ⑦ yūjadu hunā kitābun. (ここに本がある)

というのは、＜私はここで本を見た＞つまり、＜私はここで本を見つけた＞のである。

受身形に変形される動詞が多いことは言語的理由にある。アラビア語の動詞の殆どは運動性動詞であるからである。言語は文化の一部である。文化は言語を作り出すものである。まず、伝えたい事(つまり、文化)が先に成り立ってから、伝え方(つまり、言語)が成り立つ。アラビア語の動詞の殆どは受身形がとれるのは文化(特に宗教)に原因がある。イスラム教の教えによると、神であるアッラは全ての物を創造した。人間、星、空、なんでも創造したので、動作があれば、動作発者があると考えられる。そのためにアラビア語の動詞の殆どは＜動作＞を示せ、受身形もとれる。

3. おわりに

両言語の受身形は受身を表すだけではない。日本語の受身形は客観的受身、主観的受身、一次的受身、二次的受身、敬語、可能、許可、自発の様々な意味を表す。受身(客観的受身、主観的受身、一次的受身、二次的受身)を表しながら、受身とは関連がない意味、つまり、敬語、可能、許可、自発も表し得る。しかし、アラビア語の受身形は客観的一次的受身、説明文、自発のみ表す。主観的一次的受身、二次的受身、敬語は表さない。

日本語の受身形は主観的一次的受身、二次的受身、敬語を表し得るが、アラビア語の受身形はそれらを表し得ないということで両言語の受身形が食い違う(表1参照)。

3.2.注

- 1) 日本語の受身形の作り方：形態的に日本語動詞を3グループに分けられる。1グループの動詞は原形<い行>で終わる動詞のグループ（国語学ではいわゆる五段動詞。たとえば、かきます。2グループの動詞は原形<え行>で終わる動詞のグループ（国語学ではいわゆる下一段動詞）。たとえば、たべます。及び、原形<い行>で終わる動詞のグループ（国語学ではいわゆる上一段動詞）。たとえば、みる。3グループの動詞は<します>、<きます>の2動詞のみである。

1グループの動詞を受身形にする場合、原形<い行>を<あ行>に変え、<れ>をつけくわえる。しかし、<あい(ます)>のような原形<い>で終わる動詞は<あわれ(ます)>になる。つまり、<あい(ます)>の原形<い>は<わ>になります。また、3グループの「い行」で終わる動詞<みます>、<あびます>、<のびます>のような動詞は原形だが1グループの動詞と同じ形が、動詞を受身形にする場合、原形<られ>をつけくわえる。2グループの動詞を受身形にする場合、原形<え行>に<られ>をつけくわえる。3グループの動詞は<します>を<され(ます)>と<きます>を<こられ(ます)>にする。）

- 2) <受身>とは受ける側のことである。つまり、日本語の受身は動作を受ける側を中心に表す範疇である。また、動作と関連がある者を分け、動作を受ける側を<動作受者>と動作を与える側を<動作発者>と呼ぶことにする。
- 3) 動作受者（どうさじゅしゃ）とは動作を発する側のことである。
- 4) 直接的とは文に表れている。
- 5) 間接的とは含意されている。
- 6) 用例出典名を次のように省略する。

（木91）村木新次郎1991（参考参照）、（入）入門日本語教授法、（益91）益岡隆志19891991（参考参照）、（三）三島、（v.s）インターネット朝日新聞「きょういく'98」のトップページ 特集 連載「v.s.大人ボクらの時代」、（鈴77）鈴木1977、（天）天 声人語、（人間）人間交差点、（かい）開高健、（日基1）日本語基礎、（Asa）Asahi 98/6/15、（日初）日本語初歩、（め）めぞんいっこく、（森）（森田良行）（fu）不幸 の樹（アラビア語版）、（不）不幸の樹（日本語版）

- 7) 動作発者（どうさはっしゃ）とは動作を側のことである。
- 8) <迷惑>または<利害>と呼ばれる（益岡隆志1991モダリティの文法くろしお格助詞

3.4.参考文献

3.4.1.日本語の参考文献

ELSHERBENY Maher 1991「現代日本語におけるアスペクト研究の現状」『ニダバ』

西日本言語学会

村木新次郎1991『日本語動詞の諸相』ひつじ書房

1986「ヴォイスの輪郭」『国文学解釈と鑑賞』第1巻、至文堂

1989「ヴォイス」『講座日本語と日本教育』第4巻、明治書院

草薙裕 1991『日本語は面白い』講談社

益岡隆志1989『基礎日本語文法』1991『モダリティの文法』くろしお

水谷信子1994『実例で学ぶ誤用分析の方法』アルキ1995『日英話し言葉の文法』くろしお

森田良行1992『日本語の視点』創拓社

3.4.2.アラビア語の参考文献

ALHAMALĀWY Aḥmad “ SHADHĀ AL ‘URIF FY FANN ALṢARIF ” BEIRUT
ALMAKKTABA ALTHAQĀFIYA

ALSAID ‘Abdu Alrahīmān “ ALKIFĀYA FY FAN ALṢARIF ” CAIRO,
DĀR ILMA ‘ĀRIF, 1991

HASAN ‘Abbās “ ALNAḤW ALWĀFY ” CAIRO, DĀR ILMA ‘ĀRIF, 1992

NI ‘ĪMA Fuād, MULAKHAS QAWĀ ‘ID ALLUGHA AL ‘ARABIYA, CAIRO, NAHDAT
MISR

ELSHERBENY Maher, ANMĀT TARJAMAT ALMABNY LIMAJHŪL ALLUGHA
AL ‘ARABIYA ILĀ ALLUGHA ALYĀBĀNIYA, CAIRO, CAIRO uni press
1998

3.4.3.表 1

両言語の受身形が表す意味の類似点と相違点

対照項目		アラビア語	日本語
類 似 点	客観一次的受身	○	○
相 違 点	説明文	○	×
	主観的受身	×	○
	二次的受身	×	○
そ の 他	敬語	×	○
	自発	○	△
	許可	△	○
	可能	△	○

注（○あり、×なし、△場合によって）